

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
大原自動車・スポーツ専門学校	平成1年1月26日	伊藤 宏夫	〒805-0023 福岡県北九州市八幡東区宮の町1-1-1 (電話) 093-651-5500				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	理事長 安部辰志	〒101-0065 東京都千代田区西神田1-2-10 (電話) 03-3292-0151				
目的	モータリゼーション化、国際化等の社会において、自動車整備士の分野を担うために必要な基本的原理を理解し、専門的能力と実践的技術を身に付けた人間性豊かな社会人を育成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	一級自動車整備研究科	—	平成26年文部科学省告示第9号			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	4053.6	937.8	140.2	2975.6	0	0
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120人 の内数	71人 の内数	4人 の内数	2人 の内数	6人 の内数			
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 優・良・可・不可の4種をもってこれを表し、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とし、優・良・可を合格、不可を不合格とする。			
長期休み	■学年始め:4月8日 ■夏季:8月1日～8月21日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月24日		卒業・進級条件	・各科目の評定値が全て可以上 学科及び実習における提出物が提出されていること。 ・2年次から3年次に進級する際には必ず2級ガソリン、2級ジーゼル整備士を取得すること。 ・補習で欠席状態を補う事			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者への連絡及び自宅訪問		課外活動	■課外活動の種類 ホンダエコマイルツチャレンジ出場 ■サークル活動: 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 自動車ディーラー、建設機械整備、自動車用品販売店 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 90.9% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年3月31日時点の情報)		主な資格・検定等	1級自動車整備士 2級自動車整備士 自動車メカニック検定 中古自動車査定士			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 1.4% 平成28年4月1日時点において 在学者 71名 (平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において 在学者 70名 (平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 3年次への進級要件である国家試験合格が果たせなかったから。 ■中退防止のための取組 遅刻・欠席が少しでもみられる学生に対し、個人面談を行い指導している。						
ホームページ	http://www.o-hara.ac.jp						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①卒業生の主な就業先である自動車ディーラーの整備部門と連携して教育課程の編成を行なうことにより、専門的な知識・技術修得した即戦力となる人材を育成する。
- ②自動車整備分野における学修の中心は整備技術知識である。この整備技術について、教育課程編成委員会を通じて常に最新の整備技術を反映させる。
- ③上記①、②により編成された授業科目、内容が実践修得されているかどうか、教育課程編成委員による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で、教育の質の確保ならびに更なる教育の質向上に活用する。
- ④当学園の教育課程の編成は一部の学科を除き学園本部が統括している。そのため教育課程編成委員会も各分野ごとに共通の組織を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

①位置づけについて

大原学園における教育課程の編成ならびに学園各校の教育成果の測定は学園本部内に各専門分野別に組織された教育本部で行なっている。よって、教育課程編成委員会は学園本部内に設置して、各校の授業科目、内容について統制を行う。

②意思決定の過程について

教育課程編成委員会の提言を各教育本部主催の会議にて検討し、次年度以降の教育カリキュラム、教材作成に活用する。教育課程編成委員に教育現場の責任者である校長、就職本部長、教務部長が参加することで、企業等の委員から提示された課題、改善提案を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、内容、手法)の編成に反映させることができる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
梶島 大希	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 北九州事務所 所長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日	②
坂本 義治	株式会社スズキ自販福岡 専務執行役員	平成27年4月1日～ 平成29年3月31日	③
伊藤 宏夫	大原自動車・スポーツ専門学校 校長	—	学内
小林 恒彦	大原自動車・スポーツ専門学校 教務部 部長代理	—	学内
藤永 賢治	大原自動車・スポーツ専門学校 教務部 自動車課 課長代理	—	学内
高野 克浩	大原自動車・スポーツ専門学校 教務部 自動車課 課長補佐	—	学内

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催する。

第1回:5月「前年度教育成果の振り返り」

第2回:7月「今年度の課題整理と次年度以降教育内容の見直し」

(開催日時)

第1回 平成28年5月11日 18:40～19:20

第2回 平成28年7月11日 18:40～19:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

第2回委員会において、物事を推測して行動できる人材育成を、という意見をいただいたので、考え方を深めさせる授業作りを工夫した。また、ネットヨタ北九州主催の危険予知トレーニングやスズキ・マツダ主催の講習会への参加等、企業との強い連携が生まれている。その他、インターンシップにおいて、法令点検に的確に対応できるようディーラー現場の声を反映させた学習内容となるよう努めている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ①自動車ディーラーの自動車整備士(国家資格2級以上実務経験3年以上)に学校側に出向いていただき、実習を実施する。また、最新の車両による技術の紹介や最新の機材による実習を実施する。
- ②自動車ディーラーとの連携による実習を通じて学生のより実践的な知識・思考・技術修得と、社会人としての意識改革、サービスマンとしての意識改革を実現する。
- ③自動車ディーラー担当者と連絡を取り実習営業所を確定する。学生の知識・技術の修得状況を報告し、実務実習を行ってほしい内容を伝える。その後成長度合いに対し実務の視点から評価を仰ぐ。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

1年次

自動車ディーラー担当者に整備士の出前授業依頼を行い、出前授業の承諾書を頂戴するとともに、打合せを行い、下記の4点について連携している。

- ① 担当者と打ち合わせを行い、実習日程、実習内容、到達目標、評価指標等を調整・決定
- ② 最新車両の持ち込み、最新整備工具の持ち込みを行い実習実施
- ③ 学生の実習状況の確認及び自動車ディーラー担当者との情報交換のため、担当教員による訪問
- ④ 実習終了時の学生の学修成果の評価

4年次

国土交通省1級課程では実務実習(体験実習)を実施することが必須条件となっており、この内容について企業と連携を取り実施する。

- ① 自動車整備工場(認証工場)において、学校で修学した項目について、現場実習を行い、修学度合いなどの評価を行う。
- ② 担当者と打ち合わせを行い、実習日程、実習内容、到達目標、評価指標等を調整・決定
- ③ 実習実施内容について、実習日誌、総括記録にて報告の依頼
- ④ 万が一の事故に対し責任が学生に及んだ場合を想定し企業側と話し合い、必ず学生にインターンシップ保険に加入させる。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
エンジン	2輪エンジン50CC整備、車両からのエンジン脱着、ガソリンエンジン分解組み付け、ディーゼルエンジン分解組み付け策定等の実習を行ないます。	株式会社九州マツダ、スズキ自販福岡(株)、等
シャシ	トランスミッション、ディファレンシャル、ステアリング、サスペンション、ブレーキ等の分解組み付け測定作業を行ないます。	株式会社九州マツダ、スズキ自販福岡(株)等
電装	電気基礎、充電装置、始動点火装置、車体電装品の分解組み付け測定作業を行ないます。	株式会社九州マツダ、スズキ自販福岡(株)等
総合診断 (実務実習)	企業内において実務実習を行います。将来の仕事内容を実際に体験することで、今までの勉強内容を確認すると共に、今後の学習の参考にします。	スズキ自販福岡(株)、福岡トヨタ自動車(株)、ネットトヨタ鹿児島(株)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。

- ① 教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
- ② 自動車整備振興会による最新技術、整備主任者、自動車検査員研修の講習受講
- ③ 自動車メーカー主催による新型車及び新機構の講習会受講
- ④ 指導力の修得に関する研修の受講

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

自動車整備士の指導に必要な専門知識向上を目的として学外において研修会に参加し、参加後、他の教員に講習を行なった。

(4月)

ネットトヨタ北九州安全技術講習

(7月)

九州日野自動車技能競技会見学、日産技能競技会見学

(8月)

バンザイ技術講習会、マツダスカイアクティブセミナー、いすゞ技術講習、福岡トヨペット技術講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

(8月)

アドラー心理学研修会 (退学者防止セミナー)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

前年度と同様の研修を実施予定。

② 指導力の修得・向上のための研修等

前年度と同様の研修を実施予定。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。この教育理念に基づき実践的な教育が実現出来ているか、また、その教育を実現するために必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①理念・目的・育成人物像は定められているか。 ②学校の特色はなにか。 ③学校の将来構想を抱いているか。
(2) 学校運営	①運営方針は定められているか。 ②事業計画は定められているか。 ③運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか。 ④人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか。 ⑤意思決定システムは確立されているか。 ⑥情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	①各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか。 ②修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか。 ③カリキュラムは体系的に編成されているか。 ④学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか。 ⑤キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか。 ⑥授業評価の実施・評価体制はあるか。
(4) 学修成果	①就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか。 ②資格取得率の向上が図られているか。 ③退学率の低減が図られているか。 ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5) 学生支援	①就職に対する体制は整備されているか。 ②学生相談に関する体制は整備されているか。 ③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ⑥学生寮等、学生の生活環境への支援は行なわれているか。 ⑦保護者と適切に連携しているか。 ⑧卒業生への支援体制はあるか。
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。 ②学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ③防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行なわれているか。 ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ③入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行なわれているか。 ④学納金は妥当なものとなっているか。
(8) 財務	①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ③財務について会計監査が適正に行なわれているか。 ④財務情報公開の体制整備はできているか。
(9) 法令等の遵守	①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ③自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ④自己点検・自己評価結果の公開はしているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか。 ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

卒業生の、就職先における適応性を高めるための指導に関する幅広い意見をいただいた。就職先企業においては、専門技能に特化した業務だけでなく雑務等も器用にこなす必要がある。そうした能力を伸ばすために、種々の学校行事を有効活用していくことが確認された。また、業種・職種に対するマッチングがうまくいったか、卒業後の追跡調査を充実させることについても確認された。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
桑原 淳	ネットヨタ北九州株式会社 人材開発室教育G サービス部技術G 課長	平成27年4月1日～ 平成29年3月31日	企業等委員
金山 翔吾	株式会社セルフケア (スポーツトレーナー)	平成27年4月1日～ 平成29年3月31日	企業等委員
福田 哲矢	株式会社ホンダカーズ福岡	平成27年4月1日～ 平成29年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL:<http://www.o-hara.ac.jp/about/jissen/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ① 実践的な職業教育における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会選択に資すること。そのために、学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題など学校全体に関する情報を分かりやすく示すこと。
- ② また、上記①により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼に繋げていくこと。
- ③ 情報の公表を通じて学校の教育の質の確保と向上を図ることを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の目標および計画、経営方針、特色、所在地、連絡先 学校の沿革
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、目指す資格・検定、資格取得・検定試験合格実績、卒業生の進路
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	各学科の実習紹介
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6) 学生の生活支援	学習や学校生活に対する不安解消(先輩の声)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金、学費減免等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	留学生の募集
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.o-hara.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備研究科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ガソリン・エンジン構造学	ガソリンエンジン本体とそのエンジンの作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前後	70		○			○		○	○	
○			ディーゼル・エンジン構造学	ディーゼルエンジンは商用車及び多くのRV車に搭載されています。そのエンジンの作動原理と特異性及び基礎理論について学びます。	1後	34		○			○		○	○	
○			シャシ・車体構造学	車のエンジン及びエンジンの電装品を除く部分です。シャシ車体の基本構造を学びます。	1前後	70		○			○		○	○	
○			電装品構造学	基本電気回路や発電機、モーター等の基礎知識を学びます。	1前	59		○			○		○	○	
○			自動車数学	エンジンのピストンスピードやブレーキの油圧など、基本計算を学びます。	1前後	22		○			○		○	○	
○			製図	JIS規格に沿った線の引き方や太さなどを理解し、基礎になる製図を製図用紙、定規、コンパスを用い描きます。	1前後	19		△	○		○		○	○	
○			整備作業機器	自動車整備に使用する作業機器の概要や使用方法を学びます。	1前	17		○			○		○	○	
○			工業計測	自動車整備で使用する計測器具、マイクロメータ、シリンダゲージ、ダイヤルゲージ等の扱い方や読み方を学びます。	1前	17		○			○		○	○	
○			手仕上げ作業	軟鋼材料をボール盤、電気ドリル、ヤスリ、金切鋸等を用い工作作業を行ないます。	1前	11					○	○	○	○	
○			機械工作	自動車用サーキットテスターを半田、半田こて、ニッパ等を用い作成し自動車の基礎作業を行ないます。	1前	11					○	○	○	○	
○			基本計測	自動車整備で使用する計測器具、マイクロメータ、シリンダゲージ、ダイヤルゲージ、サーキットテスター等を用い機械測定を行ないます。	1前	54					○	○	○	○	
○			エンジン	2輪エンジン50CC整備、車両からのエンジン脱着、ガソリンエンジン分解組み付け、ディーゼルエンジン分解組み付け策定等の実習を行ないます。	1前後	210					○		○	○	○
○			シャシ	トランスミッション、ディファレンシャル、ステアリング、サスペンション、ブレーキ等の分解組み付け測定作業を行ないます。	1前後	210					○		○	○	○
○			電装	電気基礎、充電装置、始動点火装置、車体電装品を分解組み付け測定作業を行ないます。	1前後	212					○		○	○	○
○			故障原因探求	エンジン、シャシ、電装作業において、故障に関する原因追求の実習を行ないます。	1後	48					○	○	○	○	

○		就職対策	就職試験に出題される漢字や数学、時事問題などの解き、解説を行ないます。	1 前後	64		△	○		○		○	○
	○	Word, Excel	パソコンワープロソフト マイクロソフト Wordを使用し、案内文書、報告書等の書き方を学びます。	1 後	9					○	○	○	○
○		特殊機構	ロータリエンジン、ターボチャージャ、スーパーチャージャ、LPガスエンジン等、特殊なものについて学びます。	2 前	19		○			○		○	○
○		自動車と環境問題	地球環境の問題、大気汚染、水質汚濁、騒音、代替エネルギー等、自動車が及ぼす環境問題を学びます。	2 後	21		○			○		○	○
○		自動車工学Ⅰ	自動車における走行抵抗、駆動力、加速力、エンジン性能等を学び計算算出する。	2 前	15		△	○		○		○	○
○		自動車工学Ⅱ	力の釣り合いを学び車両の重心、車両重量や軸重等を算出します。	2 前	17		△	○		○		○	○
○		自動車エレクトロニクス	半導体の種類と特質を学び、電子回路に使用されているダイオード、トランジスタ、論理回路を理解する。	2 前	30		○			○		○	○
○		材料	自動車のボディーやバンパー等に使用されている様々な材料を学びます。	2 前	6		○			○		○	○
○		燃料と油脂	自動車に使用されている燃料、オイルなどの種類や特性を学びます。	2 前	7		○			○		○	○
○		ガソリン・エンジン整備法	1年次ガソリンエンジン構造学の応用編になります。特にガソリンエンジンの整備について学びます。	2 前	34		○			○		○	○
○		ジーゼル・エンジン整備法	1年次ジーゼルエンジン構造学の応用編になります。特にジーゼルエンジンの補記類、噴射ポンプや電子制御噴射ポンプ等の整備について学びます。	2 前	34		○			○		○	○
○		シャシ・車体整備法	1年次シャシ車体構造学の応用編になります。小型車ABSや大型車エアブレーキ等の整備について学びます。	2 前	60		○			○		○	○
○		電装品整備法	1年次電装品構造学の応用編になります。電子制御点火装置や充電装置の整備について学びます。	2 前	34		○			○		○	○
○		故障診断学	各部門での故障診断を学ぶとともに2級国家試験に出題されている問題を理解する。	2 後	110		○	△		○		○	○
○		自動車検査	道路運送車両法の保安基準を理解し自動車検査に適合するか否かを学びます。	2 後	20		○			○		○	○
○		自動車関係法令	道路運送車両法の自動車の種類、登録制度、検査制度等を学びます。	2 後	20		○			○		○	○
○		エンジン	噴射ポンプ（分配型、列型）や2輪400CCの整備を行ないます。	2 前後	109					○	○	○	○
○		シャシ	オートマチックトランスミッション、自動制御型ディファレンシャル、トラック整備等の作業を行ないます。	2 前後	109					○	○	○	○
○		電装	電子制御燃料噴射装置、エアコン、電子回路等をサーキットテスターやオシロスコープで測定作業を行ないます。	2 後	109					○	○	○	○
○		故障原因探究	不具合原因を追究し故障原因を探求する作業を行ないます。	2 後	91					○	○	○	○

○		自動車検査	実際の車両の車検を実施し、検査ラインを用い適合するか否かを判断作業を行ないます。	2前	51				○	○		○	○
	○	Word, Excel	パソコン表計算ソフト マイクロソフト Excelを使用し、お客様のデータ管理や作業請求書等を学びます。	2後	20				○	○		○	○
○		自動車の構造・性能	自動車の構造・性能に関する数学的知識を理解し、熱伝導率、仕事率や熱膨張率等の計算を行ない求めます。	3前	12.6		○	△		○		○	
○		自動車の力学・数学	自動車の力学・数学を理解し、軸のねじれ、音とdB等の計算を行ない求めます。	3前後	12.6		○	△		○		○	
○		電気・電子理論	実習教材を活用し論理回路などを組み合わせた回路製作を行い回路図の読み方や、車両搭載機器への理解を深めます。	3前	14		○	△		○		○	
○		材料	自動車に使われている材料に関する授業を行います。非鉄金属や炭素繊維など最新の素材に関しても学びます。	3後	14		○			○		○	
○		燃料・潤滑剤	自動車に使用される燃料及び潤滑剤などの油脂類に関する授業を行います。また、天然ガスや、HVバッテリーなどに関する知識も身に付けます。	3後	14		○			○		○	
○		図面	PCを活用した3DCAD作成を通じ、機械設計に関する知識も学びます。	3前	25.2		△	○		○		○	
○		エンジン	エンジンの電子制御にかかわる内容の授業を行います。各種センサ・アクチュエータの機能及び構造、不具合が発生したときの電気の流れについて学習します。	3前後	12.6		○			○		○	
○		シャシ	シャシの電子制御にかかわる内容の授業を行います。各種センサ・アクチュエータの機能及び構造、不具合が発生したときの電気の流れについて学習します。	3前後	14		○			○		○	
○		電装	電装品と新機構に関する授業を行います。ハイブリットカーや、直噴エンジン、車両安定装置などの学習を行います。	3前後	26.6		○			○		○	
○		自動車検査	自動車検査にかかわる法令の授業を行います。自動車の種類によって異なる検査基準を学んだり、実際の検査ラインの見学なども行います。	3前	11.2		○		△	○		○	
○		手仕上げ作業	軟鋼材料をボール盤、電気ドリル、ヤスリ、金切鋸等を用い工作作業を行ないます。	3前	28					○	○		○
○		機械工作	ベンチエンジンを搭載するためのフレームを作ります。主に溶接やドリルによる穴開け作業を行います。	3前	28					○	○		○
○		応用計測	ベンチエンジンを完全に分解し実施。オイルクリアランスやコンロッド大端部内径など、より正確な測定値が導き出せる技術を身に付けます。	3前	22.4					○	○		○
○		エンジン 点検・分解・組み立て・調整・検査	エンジン関係の実習授業を行います。ベンチエンジンを用いた基本測定、法定点検、一般整備などを通し、エンジン全般の仕組みや構成及び修理方法をつかみます。	3前後	216					○	○		○
○		シャシ 点検・分解・組み立て・調整・検査	シャシ関係の実習授業を行います。車体を分解し全塗装作業を行ったり、法定点検、一般整備などを通し、シャシ全般の仕組みや構成及び修理方法をつかみます。	3前後	279					○	○		○

○		電装点検・ 分解・組み立 て・調整・検 査	電装関係の実習授業を行います。法定点 検、一般整備などを通し、電装全般の仕組 みや構成及び修理方法をつかみます。	3 前後	86.8				○	○		○		
○		故障原因探求 (実習)	故障探求の進め方や計測機器の活用方法な どを学び、故障探求に必要な技術を身に付 けます。	3 後	74.2				○	○		○		
○		自動車検査作 業	自動車検査の実務に関する実習をこないま す。陸運支局へ見学に行き実際の現場での 作業の流れなども確認します。	3 後	22.4				○	○		○		
○		自動車の点検 整備	法令点検の実施を通じ、実戦力を身に付け ます。あらゆる実習車を用いて、確実かつ 効率の良い時間の使い方を学びます。	3 後	89.6				○	○		○		
○		エンジン	エンジンの電子制御にかかわる内容の授業 を行います。国家試験の過去問を解くこと により深い理解を目指します。	4 前後	26.6		○	△		○		○		
○		シャシ	シャシの電子制御にかかわる内容の授業を 行います。国家試験の過去問を解くことで より深い理解を目指します。	4 前後	26.6		○	△		○		○		
○		電装	電装にかかわる内容の授業を行います。国 家試験の過去問を解くことでより深い理解 を目指します。	4 前後	26.6		○	△		○		○		
○		故障原因探求 (学科)	故障診断にかかわる授業を行います。関連 する項目は学科授業だけでなく実習でも確 認をし、国家試験合格に向けた実力アップ を図ります。	4 前後	26.6		○	△		○		○		
○		総合診断 (学科)	総合診断作業について授業を行います。 ディーラーでのフロントマン業務を参考に 学習を進めます。	4 前	11.2		○			○		○		
○		環境保全	地球を取り巻く環境変化に対する知識や、 環境保全のため業界が取り組んでいる内容 について学習します。	4 前	15.4		○			○		○		
○		安全管理	労働災害が発生するメカニズムと、防止の ための方法及び取り組みなどについて学習 します。	4 前	11.2		○		△	○		○		
○		整備作業機器	高度整備作業にかかわる工具・整備作業機 器の授業を行います。	4 後	7		○		△	○		○		
○		測定機器	高度整備作業にかかわる工具・測定機器の 授業を行います。	4 後	7		○		△	○		○		
○		検査機器	高度整備作業にかかわる工具・検査作業機 器の授業を行います。	4 後	1.4		○			○		○		
○		自動車整備に 関する法規	自動車整備にかかわる法令の授業を行いま す。道路運送車両法の学習を通し、法令遵 守の重要性も合わせて学びます。	4 前	26.6		○			○		○		
○		自動車の点検 整備	実車を利用した点検整備作業を行います。 3年次に行った内容にプラスして国家試験 に良く出題される箇所を重点的に勉強しま す。	4 前後	246					○	○		○	
○		故障原因探求 (実務実習)	実習車を使用し実際に発生している実務実 習を行います。将来の仕事内容を実際に体 験することで、今までの勉強内容を確認す ると共に、今後の学習の参考にします。	4 前	342					○	○		○	

○		総合診断 (実務実習)	企業内において実務実習を行います。将来の 仕事内容を実際に体験することで、今ま での勉強内容を確認すると共に、今後の学 習の参考にします。	4 前	224				○		○	○		○
合計				70科目	4053.6単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>〔成績評価の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科…前期中間・前期期末・後期中間・後期期末の各試験結果。 ・実習…各セクションの実技テストの平均点を成績とする。 <p>〔成績評定及び評定時期〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評定は原則として学年末に行う。(前期・後期は評価点を記入する。) ・科目別成績評定は、優、良、可、不可の4段階とする。 <p>優 100～80 良 79～70 可 69～60 不可 60未満</p> <p>〔試験種類〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本試験…年4回行われる学科試験及び各セクション終了後の実習実技試験。 ・再試験(本試験にかわる試験)…やむを得ない事由で本試験を受けられなかった者には、再試験(本試験にかわる試験)の機会を与える。 <p>〔進級・卒業基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績評定が、すべて「可」以上であること。 ・学科及び実習授業における提出物(実習レポートを含む)をすべて提出していること。 ・出席状態が100%であること。 ・すべての校納金を納入済みであること。 ・2年次から3年次に進級するためには、二級ガソリン及び二級ジーゼルの自動車整備士資格を修得していること。 	1 学年の学期区分	2期
	前期の授業期間	21週
	後期の授業期間	31週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。